

ヘルスケア・ニューフロンティアの 課題と対応イメージ に対する各委員の主な意見

2022.03.23

神奈川県 政策局 いのち・未来戦略本部室

1 「個人の行動変容の後押し」にかかる各委員の主な意見

- 検討事項1 県は、市町村とどのように連携し、どのように政策の成果を県民に示していくのか。
- 検討事項2 県は、国や民間企業との連携に向け、具体にどのようにアプローチしていくのか
- 検討事項3 県は、個人の行動変容の後押しについてどのように進捗状況を把握し示していくのか
- 検討事項4 県は、未病指標を活用し、どのように個人の行動変容を進めていくか。

【各委員の主な意見】

検討事項1

- ◇ 市町村との連携は、市町村の既存施策と連携する仕組み作りが重要。
- ◇ 市町村は、規模や個別事情があるため、競争させすぎてはいけない。

検討事項2

- ◇ 健康経営を、民間と連携して進めるのは国と方向性が同じ。国の基盤を自治体で活用。
- ◇ 健康経営は、自治体自らも実施すべきで、入札等での加点等も方策の一つ。

検討事項3

- ◇ QOLは、目標値として困難、毎年把握可能な利用率や認知度等の定量で設定
- ◇ 目標値は、総花的な施策効果より、例えば睡眠等の一点に絞って行う方法もある

検討事項4

- ◇ 全体把握は県の未病指標、未病改善は個別指標
- ◇ 動機づけがないと未病指標は活用されない。強力なインセンティブが必要。

2 「新産業の創出」にかかる各委員の主な意見

検討事項5 県は、ヘルスケア産業拡大に向け、どのように目標設定するのか。

検討事項6 県は、未病産業拡大に向け、どのように仕組みをつくるのか。

検討事項7 県は、具体化されつつあるエコシステムをどう成長させ、どう展開するか。

検討事項8 県は、ベンチャー企業支援のため、ハンズオンと資金提供が連動した仕組みをどう構築するか。

【各委員の主な意見】

検討事項5

- ◇ ヘルスケア産業の目標は、産業界のスピードが速く設定は困難。
- ◇ 2,500億円の目標は、現状では把握困難。
- ◇ ヘルスケア産業は、国内や世界全体に影響するため、県単独の設定に拘る必要はない。

検討事項6

- ◇ 県民が体感・体験できるわかりやすいものが必要。
- ◇ 教育現場で未病の浸透が必要。

検討事項7

- ◇ 殿町の再生細胞医療では、様々な企業にも対応できるコーディネータと中立的な支援機関が必要。

検討事項8

- ◇ ベンチャー企業支援は、大企業とのマッチングが重要。投資だけでなくファンド運営にも大企業参加を促すべき。
- ◇ 社会貢献投資は、長続きせず、企業の事業に活かせる投資が必要。

3 「その他」にかかる各委員の主な意見

検討事項 9 県は、国際展開することで、何を県民へ成果として還元するのか。

検討事項10 県は、マイME-BYOカルテを今後、どのように活用するのか。

検討事項11 県は、大学・企業・行政が連携した社会課題を解決する人材育成のエコシステムを、どう構築するか。

検討事項12 県は、ウィズコロナ、ポストコロナを見据え何を重点的に施策展開すべきか。

【各委員の主な意見】

検討事項9

- ◇ 県と各国の政府機関等とのMOUにより、民間企業では調整困難な対応が可能となる。
- ◇ 各大学で進めている国際展開とも連携するとよい。

検討事項10

- ◇ マイME-BYOカルテは、使い勝手等の改善や県民が未病を学べるような構造にすべき。
- ◇ 年齢や健康状態等のセグメント分けしたデータ連携により進化可能。

検討事項11

- ◇ 大学は、社会人教育だけでなく、学び直し、学び続けられる構造にすべき。
- ◇ 人材育成は、地方自治体ならではの視点を追加したほうがよい。

検討事項12

- ◇ コロナ対応は、デジタル技術での遠隔診療と自助の組み合わせが、今後の基本となる。
- ◇ 生活習慣病と感染症の関係をアカデミアで明確にしていくことが重要。